

活動名 永慶寺川の多様な自然を守り、育てる活動 (環境美化とほたるを守り育てる活動)	団体名	永慶寺川の自然を守る会
	地域	広島県廿日市市
	代表者	代表 山本 満彦
	支援金額	25万円
活動概要		
<p>永慶寺川はふるさと大野を流れる3.62kmの2級河川である。昔から豊かな大野の田園地帯の農業用水として、またくらしの潤いと安らぎをもたらしてきました。このような永慶寺川を愛する人たちが集い、豊かな自然を守り、美しい景観づくりと魅力を育てることを目的に次のような活動を行った。</p> <p>①☑自然観察と川の生き物調査 ②☑ホタル教室の開催(こどもと地域と家族の連携) ③☑河川の美化活動(アジサイの育苗と犬の糞標識の設置) ④☑河川堤防の草刈り、雑木の伐採と河川内の清掃 ⑤☑広報のため、HPの立ち上げと運営管理 ⑥☑PO法人おおの風の定期通信にAKGいいとも隊の活動を掲載。</p> <p>◆実施時期 平成23年4月1日～平成24年3月31日 廿日市市大野地区 永慶寺川(高見～別府～知安～池田)</p> <p>◆参加人数 ①ホタル教室 126名 ②大野東小学校総合学習支援 134名 ③アジサイクラブ 17名 参加総人員 277名</p>		



AKGいいとも草刈隊・知安地区



大野東小学校・総合学習4年生
永慶寺川の清掃活動



ホタル教室・親ホタル採取



ホタル教室・生きもの調査の調べ学習

◆実施に伴う効果

- ① ふるさとの河川の自然に関心を持ってもらうことができた
- ② ホタル教室を通して、河川環境の保全に関心を高めることができた。地域の協力者、指導員、環境サポーターなどの連帯した協力で、ホタル家族を支援することが出来ました
- ③ 子どもたちには、ホタルの幼虫観察を通じて、ホタルの棲める環境づくりに関心を高めることができた
- ④ 河川の清掃を小学校の環境学習の実践体験として、支援を行った。小学校4年生123名。
- ⑤ 河川内から拾い上げた、ごみの分別を行いました。どうすれば、ごみを捨てなくなるか一緒に考えました。
- ⑥ 堤防の草刈りおよび河川内の清掃活動を広島県のアダプト制度に登録して、年間の管理を行い、それと連動した形で、アジサイを植栽するために、育苗を行った。地域の方々に協力していただけた
- ⑦ 上記の作業に関連して、廿日市市役所および広島県との協議を行い、自然にやさしい川づくりの話し合いを行うことが出来ました。
- ⑧ さらに、地域団体も、河川管理の手法としてのアダプト制度への認定をしようとする動きが見られました。

◆苦労した点

- ・ 本活動の予算について： マツダ財団の助成により、大変助かりました
- ・ 外部へのPRについて： ホタル教室は、大野東小学校の4年生を対象に、学校長と学年担任にご協力を得て、説明しました。子供たち自身の意欲で自主的な参加を求めました。また、一般には、公民館や集会所などの掲示板に掲示して、PRをしました。また、西広島タイムス(地域のフリーペーパー)に記事および募集の要項を掲載しました
- ・ 参加者について： 会員の参加及びホタル家族の参加は、芳しくはありませんが初年度として、私たちの実力にふさわしいものであると感じています。今度の活動が広く知られるようになれば、ぼつぼつ増えてくるものと期待しています。
- ・ 地域の理解について： 全てが、認容してくれているとは感じていませんが、活動の実態を見られて、理解が進むものと思っています。ただ、声なき声が届いてくることがあります。AKGいいとも隊の活動そのものを「よくやってるな」、「いいことだな」とかの噂ですが、ふるさとの川への関心が高まるのが目的ですので、今まで、気にも留めなかった川に再認識してもらえるよう今後も、継続して活動することが必要と考えています。
- ・ その他： 広島県のアダプト活動団体として認定していただきましたので、廿日市市との連携が取れるようになったことはよかったですと感じています。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・ AKGいいとも隊の会員を増やすことと、実活動への参画を促す仕掛けを打つ必要があると感じています
- ・ ホタルの育成のために、平成24年度はミニビオトープと大型施設をつくる予定ですが、河川周辺の土地に、自然観察とホタル飼育用のビオトープの設置ができることが最適なのですが、土地や利水権の問題があり、そう簡単には確保できないと考えています
- ・ 継続的な活動のためには、行政とのタイアップは続けてゆきたい
- ・ 地域団体(大野では、区制度)との連携は、河川管理の範囲を分担することで協働している。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・ 継続的活動のモチベーションをどのように保ってゆくか？仲間づくりに苦労しそうです。
- ・ 今後は、地域全体が連帯して、永慶寺川の全線にわたって、管理するような、AKGいいとも隊連合会(アダプト)のようなものができると、地域一体として、ふるさとの河川管理と環境保全の運動に結びつくものと考えている。従来は、県が管理し、洪水の防御や堤防の保全を行ってもらって、自分たちは利水権を主張するばかりで、排水のたれながし、ごみの廃棄、雑草の繁茂など、自分たちの川の意識がなかったように思います。意識の変化が起こるようになれば、最高の喜びです。